

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071400594		
法人名	株式会社 西日本介護サービス		
事業所名	グループホーム ウィズライフ西新		
所在地 (電話番号)	福岡市早良区城西2丁目9番18号 (電 話) 092 - 841 - 8377		

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋2丁目 2 - 51		
訪問調査日	平成19年12月26日	評価確定日	平成20年1月29日

情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年 6月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	26 人
職員数	27 人	常勤 25人 非常勤 2人 常勤換算 16.4人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	鉄筋造り	
	3階建ての	1階 ~ 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000～70,000 円		その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)		無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(380,000円) 無		有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円	
	夕食	500 円	おやつ	円	
	または1日当たり		円		

(4) 利用者の概要 (10月1日現在)

利用者人数	26 名	男性	4 名	女性	22 名
要介護1	6 名	要介護2	2 名		
要介護3	8 名	要介護4	9 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	74 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三恵外科 山茶花在宅クリニック 前田歯科クリニック たけとみクリニック
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

商業地域と住宅街が共立する地域にホームは在る。3ユニットからなるホームは各ユニットの個性を出しながら其々が協力し利用者が安心して安全な生活が送れるよう支援している。近隣に医療機関が多く家族も安心している。また、商業地域であることから日常的に買い物や外食ができ利用者は気分転換が容易に出来る。その地域との交流も多くなり、ホームが開催する夏祭りや餅つき大会に地域からの参加者も多くにぎわっている。ホームからは地域の行事や清掃活動、子供会の行事等に積極的に参加している。管理者、職員ともに出来ることから少しずつやっていこうと利用者の生活や地域との関わり等前向きに考え、行動に繋がっている。このようなホームの姿は利用者の穏やかな表情や職員の明るい表情から窺える。職員と利用者の関わりが深く一緒に行動したり寄り添っている姿が見られ利用者の安全に配慮されている為か台所や細部の整頓等の時間が取れていない様子である。誰もが気持ちよく過ごせるよう再度ホーム内の点検をされる等訪問者等からの評価も上がると思われる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善点はホーム全体で共有し改善に取り組んでいる。前回の改善課題は利用者の食事に関する事で、カロリー摂取の管理である。利用者個々に状態が様々である為、近隣の病院の栄養士に相談し利用者個々に合わせたカロリー摂取が出来るよう取り組んでいる。特に糖尿病の利用者へは、他の利用者と食事を変えることなく楽しく食事をしてもらう為に配慮している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を踏まえ自己評価に取り組んだ。管理者が職員に項目の説明を行い、各ユニットで話し合った。職員が日ごろ行っている業務の中で何気なくふるまう行為や言葉使い等再確認でき、職員の意識向上に繋がっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回定期的に開催している。出席者は地域代表者、民生委員、地域包括支援センター、家族代表者等となっている。毎回ホームの状況や利用者の状態を報告し出席者から意見やアドバイスを頂いている。ホームの行事や地域の行事の情報交換を行い地域との交流の場となっている。家族や地域からの意見に対してはホームで検討し早い段階で対応している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連事項:外部8,9)
	平日頃より家族とホーム全体が話しやすい関係を作っている。面会時には必ず利用者の状態の報告を行い、家族からの意見を聴き取っている。意見や苦情があった場合は、申し送りノートに記録し全職員が確認できるようにしている。その後、即話し合いを行い改善している。改善点を家族へ報告している。また、利用者個々の状態を毎月家族へ文書で報告を行っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連事項:外部3)
	ホームの基本方針である地域の身近な存在となり、地域に開かれたホームを目指す...このような理念(基本方針)を管理者、職員が共有し出来ることから行動している。運営推進会議で民生委員や地域代表者と情報交換を行い、地域の行事の参加や、公園掃除、リサイクル活動等積極的に参加している。また、子ども会との交流もあり、夏休みにホームに子供たちが訪問し利用者と一緒に過ごしている。ホームの行事の夏祭りや餅つき大会にも地域住民とともに楽しめるようホーム全体で取り組んでいる。

2. 評価報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	法人全体の理念は既にありそれを元にサービスを提供しているが、ホームとしての理念も基本方針としてホーム全体で話し合い作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念、基本方針を掲示し、ミーティング等で管理者、職員共に確認している。職員は其々ができることから実践し、取り組みを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し町内の夏祭りや清掃等に参加している。公園掃除には利用者も参加し地域の住民や子供会とも懇意にしている。ホームの行事の夏祭りや餅つき大会等は地域の住民の協力を得て賑わっている。このように地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が職員に評価の意義を説明し項目に関しては各ユニットで話し合った。その後、管理者が意見をまとめた。自己評価を確認し話し合うことで職員の理解度も深まり日々の業務で活かすことができている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。出席者は地域代表者、民生委員、地域包括支援センター、家族代表者等となっている。毎回ホームの状況や利用者の状態の報告を行い、ホームの行事や地域の行事の情報交換等も行い運営推進会議を有効活用している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所の窓口にはホームのパンフレット等を置かせてもらい、ホームのピーアールにてホームの存在を知ってもらっている。また、介護保険課を通じ専門学校の研修生や中学生の福祉体験等を受け入れている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現に成年後見制度を利用している利用者があり、おおまかには理解している。福岡県の研修に参加し伝達研修を行っている。また、必要に応じ家族へ説明を行っている。しかし、全職員が周知しているわけではない。	○	権利擁護に関するおおまかな理解はしているが、全職員が周知、理解はしていない。パンフレットの準備はあるが目につく場所に置いていない状況である。現に利用している利用者もあることからこれを機会にホーム内で研修を開き全職員が理解されることを希望する。
4.理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や常態の変化があった場合等報告は欠かさない。また、ホームから通信として利用者個々の状態を家族へ郵送にて知らせている。金銭管理に於いては全て立て替えとし、帳簿に記帳し領収書を添付し明確に管理している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの訴えや苦情は管理者、職員がいつでも直接聴ける関係を構築している。苦情等があった場合は申し送りノートへ記録し、全体で話し合いを行い改善し、家族へ報告している。公的機関の苦情、相談窓口を掲示し、入居時に家族へ説明している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動はスキルアップの為に異動があるが、管理者が変わる場合は家族会や書面で通知し、職員の場合は家族の面会時や面談時に通知している。日ごろより法人内のホーム間で行事の手伝いや訪問を行っており、利用者とも顔なじみの関係を作り、異動先の情報を早い段階から収集している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	特に条件は設けていないが、仕事に対してやる気のある人材を採用している。入社前に1日ボランティアをしてもらいホームを知ってもらっている。採用後無資格者には資格取得の機会を与え、学びながら働けるシステムがある。働いている職員の特技を活かせるよう業務を組んだり、趣味活動で発揮できるようにしている。また、自発的にボランティア活動をしている職員もあり、職員が働きやすい環境を作っている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部の研修に参加しホームで話し合いを行っている。法人全体の研修もあり、事例検討会等を行っている。特に、抑制に関する事柄や、リスク管理は重要視し検討会を行い、職員の意識向上を図っている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での研修が設けられている。リーダー、現任、新人と段階的に研修を受けられる。外部の研修にも参加できるようシフト調整や他のユニットからの協力体制もある。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会（グループ）に所属しており、他のホームとの情報交換や研修を行う機会がある。また、近隣の事業所間で勉強会を開くこともある。職員同士も気軽に他のホームに訪問し、懇親を深めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に家族がホームの見学に来てその後本人と共に見学してもらっている。入院先から入所の場合は入院先にホームより出向き本人と直接会い本人の状態を確認している。また、体験入所やショートステイ等を利用してもらいホームの様子を見てもらい、本人が納得できるよう配慮している。入所直後の不穏状態のある場合の対応も臨機応変に実施し本人が不安を感じないよう配慮している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり 支えあう関係を築いている	職員は新しい家族として利用者と関わり、介護しているという気持ちを持たず、入所者から人生や、昔からの生活の知恵等教わり、利用者が困難な部分を手伝うというお互い様という気持ちで接している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉で表現できる利用者には面談を充分に行い、思いを把握し、言葉で表現できない利用者の思いは利用者と同じ体験を職員が体験することにより本人の意向や思いを汲み取っている。例えば、ソファにじっと腰掛けて過ごしてみたり、職員の視線がどうなのか利用者の視線で考えている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族と面談を充分に行い本人の意向を反映させている。毎月モニタリングを行い、家族へ通知している。モニタリングにはケアチェック表を用い、担当者が確認し担当者会議で活用している。		
19	39	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングで見直しを行うと共に利用者の状態の変化や要望に合わせて見直し、カンファレンスにて計画を作りなおしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	3ユニットで協力体制ができている為、外出や受診の付き添いが容易にできる。また、家族が面会にきてそのまま泊まることも自由にしており、多方面で柔軟な対応ができている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入所前の主治医を引き続き主治医としている。近くに医療機関がある為、本人や家族の要望があれば、主治医を変えることもある。受診の付き添いにて主治医より本人の状態を聴き取り、情報収集しホームでの様子を主治医に連絡する等で主治医と連携を図っている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に関する指針を入所時に説明し看取りの同意書を家族より先らっている。必要に応じ本人、家族が最期をどう過ごすか意向を確認している。ホーム全職員はできる限りまで利用者がホームで過ごせるよう支援することは共有している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者個々の人格を尊重し支援を行っている。職員の優しい言葉使いや利用者の話に傾聴している。個人記録は各ユニットのステーションの書庫に保管し、ステーション入り口は施錠している。ホーム内に掲示されている利用者の写真等は本人、家族の了解を得ている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のおおまかな流れはあるが、利用者個々の状態や希望に合わせてその日の過ごし方を決めている。歌の好きな利用者の傍で一緒に歌う職員や庭で外気浴を楽しむ利用者等その日その日を楽しんでいる。利用者の希望に添えるよう3ユニットで協力し合っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に希望を聴き取り、ほぼ毎日利用者と共に買い物に出かけ献立を決めている。また、冷蔵庫にあるもので利用者からヒントをもらったり、利用者が味付けをすることも日常的に行われている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間の設定は無い。利用者の希望の時間に入浴できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の特技等を考慮し家事の分担ができている。掃除や食事の後片付け等職員と一緒にやっている。また、花を生けてもらったり、お茶会を開きお茶の立て方を職員が教わることもあり、利用者が楽しく生活できるよう工夫されている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の散歩や買い物等商店街が近い為よく散策に出かけている。定期的な公園掃除に職員と共に参加したり、行きつけの理美容室に出かける等利用者の希望に沿って支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階の玄関及び各階のエレベーター、玄関は施錠しておらず自由に行き来できる。利用者の見守りの為、職員はステーションやホールにも居るようにし事故の無いよう配慮している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう動きかけている	年に2回消防署を交えての訓練とホーム独自で年に2回の避難訓練を実施している。特に夜間想定した訓練を重点的に行っている。また、地域の防災訓練にも参加し、地域の住民の協力も得られるように体制を整えている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェック表の記録、必要に応じ水分量のチェックをしている。利用者の状態に合わせた摂取ができるよう職員は情報を収集し無理のない状況で支援している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は和風の造りで落ち着ける雰囲気がある。ホールやリビングに利用者が活けた花が飾られたり、季節の飾りが施され家庭的な趣きがある。窓が多く採光も程よく取り入れられ、心地よく過ごせている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋に入るものは制限無く持ってきてもらっている。本人の使い慣れたものや、家族の写真が貼られたり、本人の生活スタイルで部屋のレイアウトがされている。		